



2016年3月期 第2四半期  
決算説明資料

2015年11月18日

株式会社 ライドオン・エクスプレス  
(証券コード:6082)

# Summary

---

## ■ 16.3期 第2四半期 決算概要

- 売上高80.5億円、経常利益5.7億円と対前年同四半期比で増収増益。
- 6月からのメニュー改定で導入した新商品の出数が予測を越えて推移したことにより、既存事業の業績は好調に推移。
- 前年より広告費の削減、かつ業績好調による生産性向上の結果、販管費率は前年同期比1.0%減少となる。

## ■ 16.3期 事業戦略

- 引き続き期初計画を推進。
- 注力ポイント
  1. 銀のさら商品構成のブラッシュアップ
  2. すし上等！の出店推進
  3. ファインダイン新システム
  4. テイクアウトサービス「mocci」の推進
  5. 銀のさら拠点を活用したファインダインモデル検証

# 2016年3月期 第2四半期 決算概要



## 2016年3月期 第2四半期業績

- 前期比で売上高**42**百万円、経常利益は**199**百万円と**増収増益**。
- 6月のメニューの改定に伴う新商品の販売好調により、6月以降の売上は好調で推移。
- 既存事業の業績好調に伴う、ロイヤルティ売上高増加の影響により、売上総利益率は前年同期比**0.9%増加**。
- 前年使用した広告宣伝費未使用と、既存業績好調による生産性向上の結果、販管費率は前年同期比**1.0%減少**。

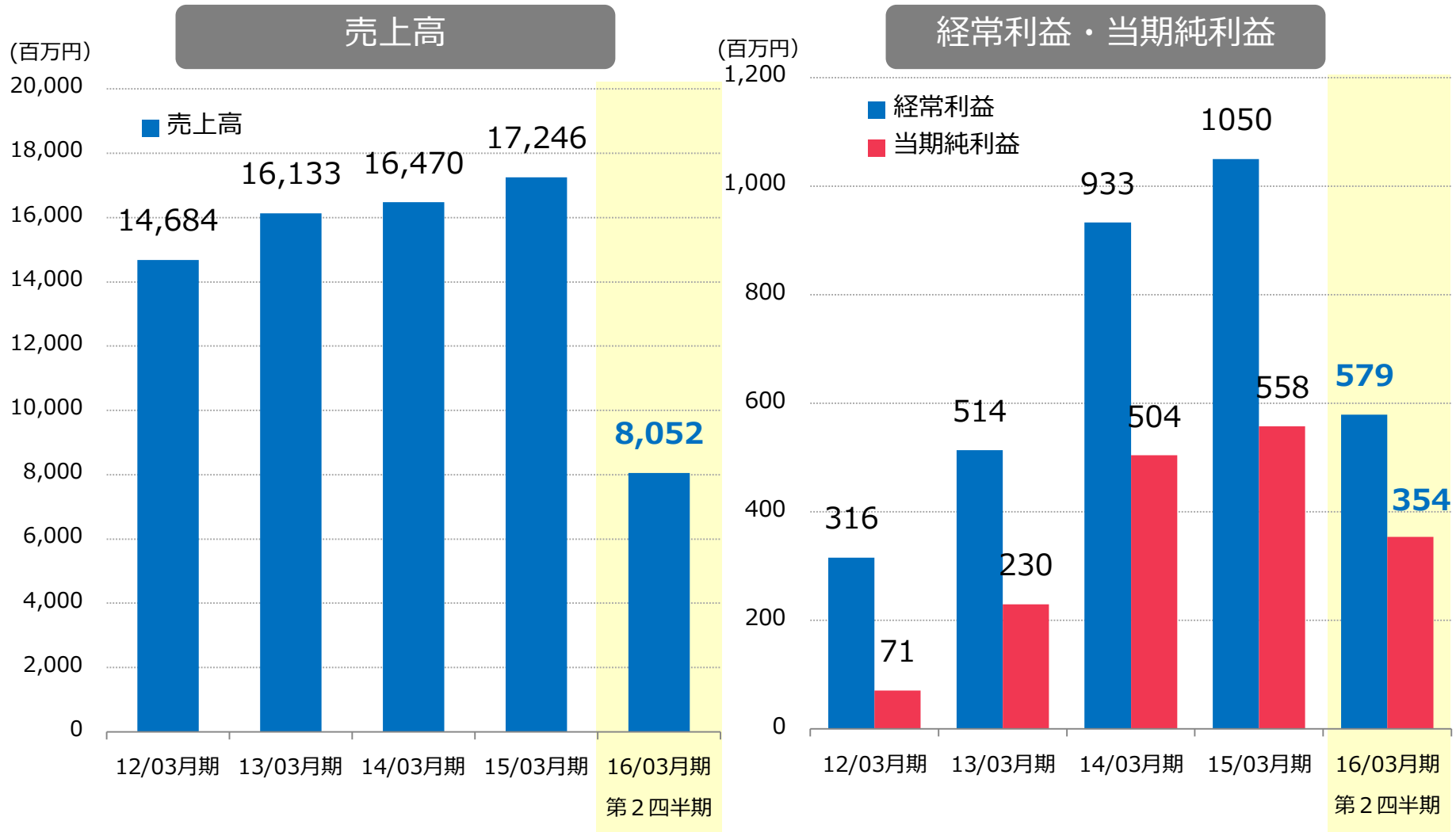
(単位：百万円)

	15.3期 2Q 実績(個別)	16.3期 2Q 実績(連結)	前年同期比	16.3期 2Q 修正予算	16.3期 2Q 修正予算比
下段：	売上構成比%	売上構成比%	前年同期比%	売上構成比%	修正予算比%
売上高	8,009	8,052	+42	8,004	+48
	-	-	+0.5%	-	+0.6%
営業利益	390	548	+157	468	+80
	4.9%	6.8%	+40.3%	5.8%	+17.1%
経常利益	380	579	+199	501	+78
	4.8%	7.2%	+52.3%	6.3%	+15.7%
四半期純利益	213	354	+140	298	+56
	2.7%	4.4%	+65.7%	3.7%	+18.6%
1株当たり四半期純利益(注)	22.97円	35.00円	+12.03円	29.44円	+5.56円

(注)当社は、平成25年8月14日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。また、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

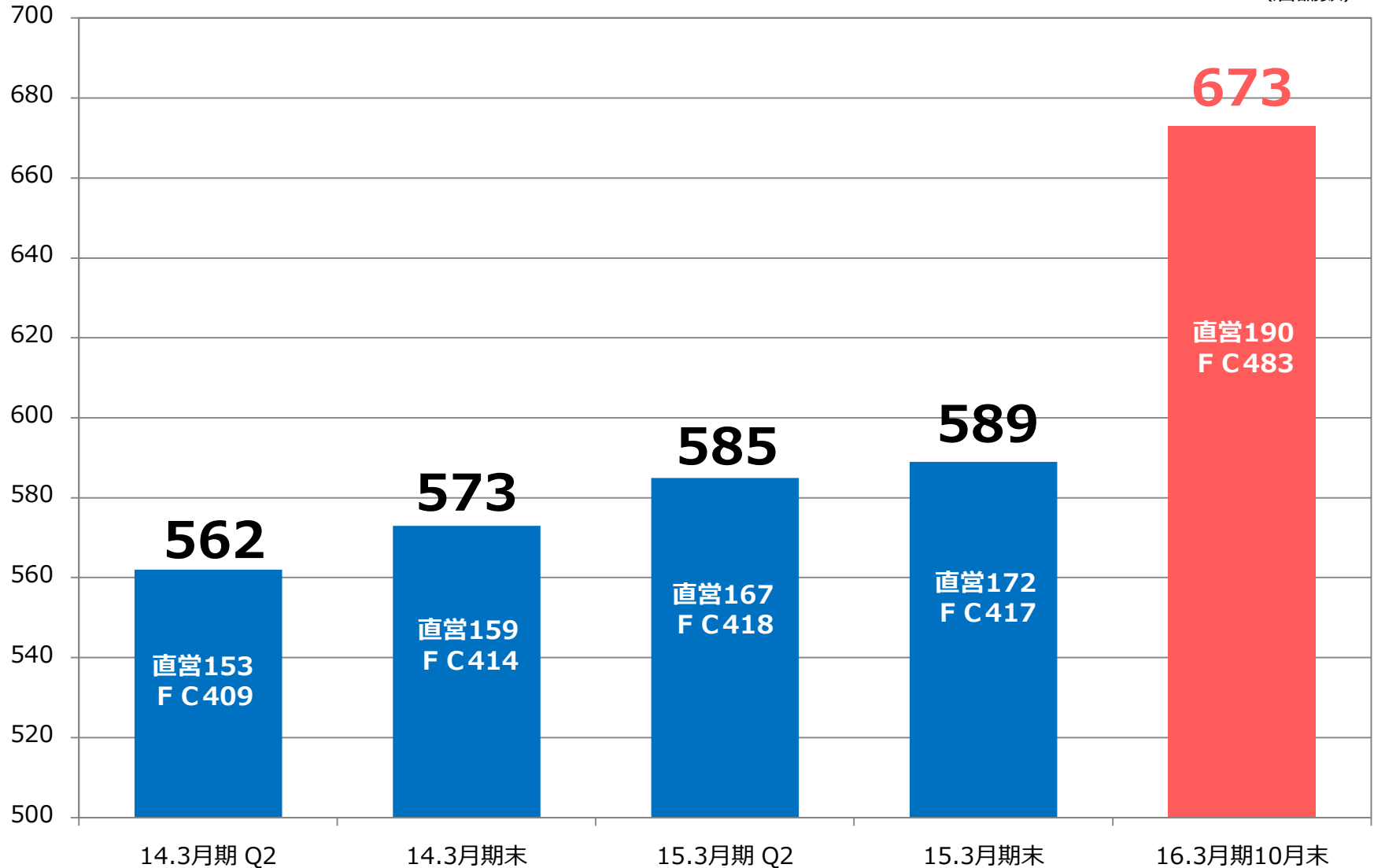
※上記全て百万円未満切捨て、%は小数点第2位で四捨五入

# 2016年3月期 売上高・利益



# 店舗数推移

■ すし上等！の出店加速（2015年10月）に伴い、店舗数は純増となる。 (店舗数)



# 2016年3月期 第2四半期BS

(単位：百万円)

	15.3期末 (連結)	16.3期 2Q (連結)	前期末比	ポイント
流動資産	4,633	4,228	△405	流動資産 405百万円減少 現預金 249百万円減少 貯蔵品 94百万円減少 有形固定資産 36百万円減少 ※現預金 - 配当金支払いによる100百万円 - 長期借入金の返済による79百万円
(うち現預金)	3,037	2,787	△249	
有形固定資産	578	542	△36	
無形固定資産	244	263	+18	
投資その他資産	856	850	△5	
資産合計	6,312	5,884	△428	
流動負債	2,416	1,804	△611	流動負債 611百万円減少 買掛金 111百万円減少 未払金 263百万円減少 消費税 140百万円減少 固定負債 70百万円減少 借入金 77百万円減少
(うち1年内有利子負債)	158	156	△1	
固定負債	677	606	△70	
(うち1年超有利子負債)	233	156	△77	
負債合計	3,093	2,410	△682	
株主資本	3,217	3,471	+253	株主資本 253百万円増加 利益剰余金 253百万円増加 SO 0.4百万円増加
純資産合計	3,219	3,473	+253	
負債・純資産合計	6,312	5,884	△428	※配当金101百万円実施のため 当期純利益は354百万円

## 2016年3月期 通期業績予想

- 通期業績予想は期初計画より変更なし。
- － 足元の業績も好調ではあるが、年間で最も収益の見込める年末年始の業績動向を元に判断。

(単位：百万円)

	15.3期 通期 実績(個別)	16.3期 通期 予想(個別)	前期比	16.3期 通期 予想(連結)
	売上構成比%	売上構成比%	前期増減率%	売上構成比%
下段：				
売上高	17,246	17,254	+8	17,254
	－	－	+0.0%	－
営業利益	1,071	1,150	+78	1,141
	6.2%	6.7%	+7.4%	6.6%
経常利益	1,050	1,184	+133	1,175
	6.1%	6.9%	+12.7%	6.8%
当期純利益	558	722	+164	713
	3.2%	4.2%	+29.4%	4.1%
1株当たり当期純利益	58.76円	71.36円	+12.60円	70.44円

※百万円未満切捨て、%は小数点第2位で四捨五入



# 今期の取組みについて



# Topics

- 株主の皆様、お客様、多くの関係者の皆様からのご支援により、東証一部へ市場変更することとなりました。



日本取引所グループ

東京証券取引所  
大阪取引所  
日本取引所自主規制法人

- マーケットニュース
- マーケット情報
- 上場会社情報
- 株式・ETF・REIT等
- 先物・オプション
- 規則・取引参加者
- システム
- 自主規制
- 清算・決済
- セミナー・学習

JPXについて

- 個人・一般の皆様
- 上場会社の皆様
- 上場をご検討中の皆様
- 取引参加者の皆様
- 機関投資家の皆様
- 報道機関の皆様



## マーケットニュース

● ニュースガイド ● 一覧

- 2015/11/13 **東証**  
新規上場の承認（市場区分未定）：フリー（株）
- 2015/11/13 **東証**  
JASDAQスタンダードからの上場市場の変更（市場区分未定）：扶桑化学工業（株）
- 2015/11/13 **東証**  
マザーズから市場第一部への変更：（株）ライドオン・エクスプレス
- 2015/11/13 **東証**  
上場廃止等の決定：（株）ポスコ
- 2015/11/13 **東証**

銘柄検索

● 条件検索 ● 株価検索

銘柄もしくはコード

- 上場会社の適時開示情報はこちら  
(適時開示情報閲覧サービス)
- マイ・ポートフォリオ
- 先物価格情報
- オプション価格情報

新規上場

● 一覧

# 2016年3月期 通期戦略

- 2016年3月期は、中期計画の達成に向けた戦略的投資の年
- 既存事業の巡航成長を担保しつつ、それによる増益を成長事業の2本柱である「すし上等!」、「ファインダイн」に分配を行う。
- 下期に関しても期初の計画のとおり、事業の拡大を進める。

## ①既存事業



## ②すし上等! 事業



## ③ファインダイн事業



メニュー改定

すし上等!  
トライアル

展開モデルの検証と  
拡大に向けた投資

上期：検証期間

収益獲得時期  
年末年始  
オペレーション

出店攻勢  
100店舗へと  
来期の体制構築

展開戦略の検討  
展開モデルの  
追加検証

下期：計画再策定

# 重点施策① 銀のさらブランドの収益力向上

## Ⅰ 銀のさらメニュー改定のコンセプト

- ネタの上質化を継続。
  - 今まで「マグロ」「ウニ」の改善を行い、6月より全店中トロを「本マグロ」に変更。
  - 商品ラインナップに中トロを打ち出した**新桶**の登場。
- お客様のご意見を基に、新商品の追加や既存商品のバリエーションを変更。
- 販促物の印刷工程などを見直したことにより、印刷物のF C販売価格を低減。



「メニュー表紙」



「マグロ3貫盛り」



「海鮮茶碗蒸し」

## Ⅰ 新商品「宴」の追加

- 『本マグロ』中トロをふんだんに使用。お客様に本マグロの中トロを堪能していただく新商品。
- 価格は1人前**1,890円**～5人前**8,980円**と、他の商品に比べ高単価で設定。
- 商品販売数は、当初想定に対し**2倍以上**で推移。



「宴5人前」

## Ⅰ 銀のさらアンバサダーミーティングの実施

直接的な交流機会の場で『銀のさら』ブランドの商品サービスなどの魅力を直に伝える場として、ミーティングを実施しています。



## 重点施策② 複合戦略ブランドすし上等！モデル検証

### 上期直営の7店舗で検証実施

6ヶ月の検証の結果、すし上等！ブランドの優位性が確認できたため、8月をもって「ろくめいかん」ブランドを「すし上等！」ブランドに統合しました。

### すし上等！のコンセプト

「消費者によりメッセージ性の高い、ターゲットを絞ったメニューを打ち出すことで、販売促進効果を高める」

- ① メニューの分かり易さ・選びやすさ
- ② 商品選定によるオペレーション効率向上
- ③ 回転寿司を意識した商品追加



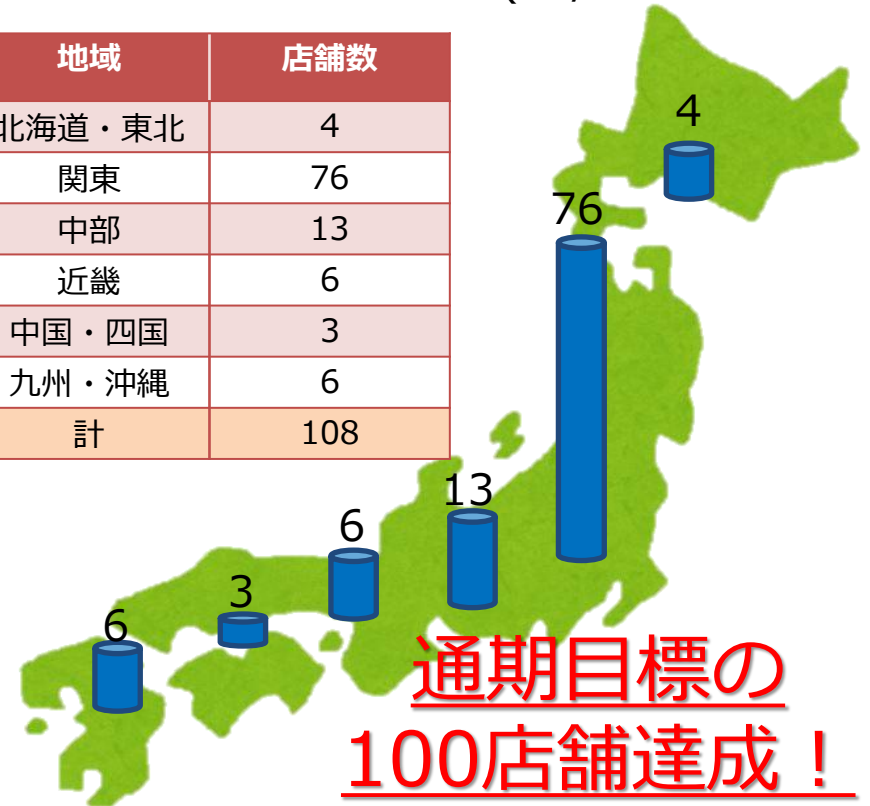
ウルトラ特上5人前



特上5人前

### 地域別 すし上等！店舗数 (11/18時点)

地域	店舗数
北海道・東北	4
関東	76
中部	13
近畿	6
中国・四国	3
九州・沖縄	6
計	108

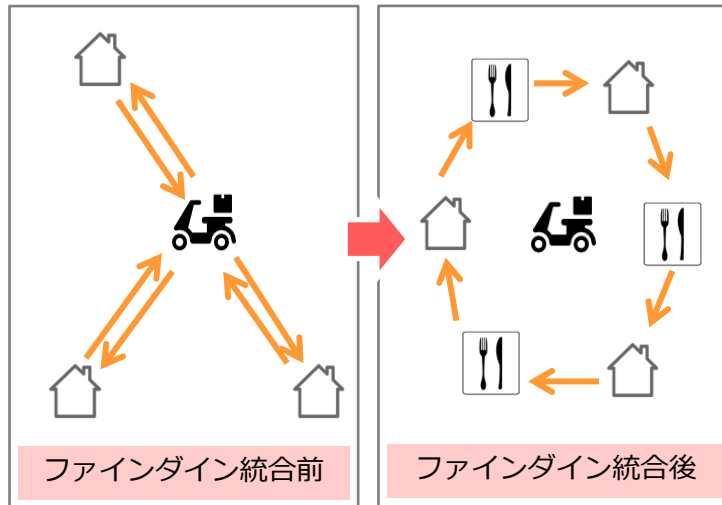


#### 【下期の取組み】

年明け2016年からの出店に向けた営業の推進と、ブランド認知をSNS・WEBを通して拡大する。

# 重点施策③ 新複合戦略 銀のさら & ファインダインの検証

- 銀のさら拠点を活用した展開モデル検証
  - 銀のさらとファインダインのデリバリー統合オペレーションの検証を8/1より渋谷店で実施。
  - 複合化戦略と同様に、店舗設備・物流インフラ・食材・人財・顧客データなどを共有して生産性を高めることが可能となる。
  - 3ヶ月のトライアルの結果、オペレーションの課題点は抽出済み。店舗拡大のためのオペレーション検証を新店にて進める。



- テイクアウトサービス「mocci」の推進
  - 101レストランでサービス中 (11/18時点)
  - 現在も検証フェイズであり、引き続き顧客認知を広げるためのキャンペーンを継続
  - WEBサイトにてファインダイニングとの融合を行う。

## 【下期の取組み】

新しいテイクアウトサービスの顧客認知を広げるため、恵比寿にて期間限定PRを実施。



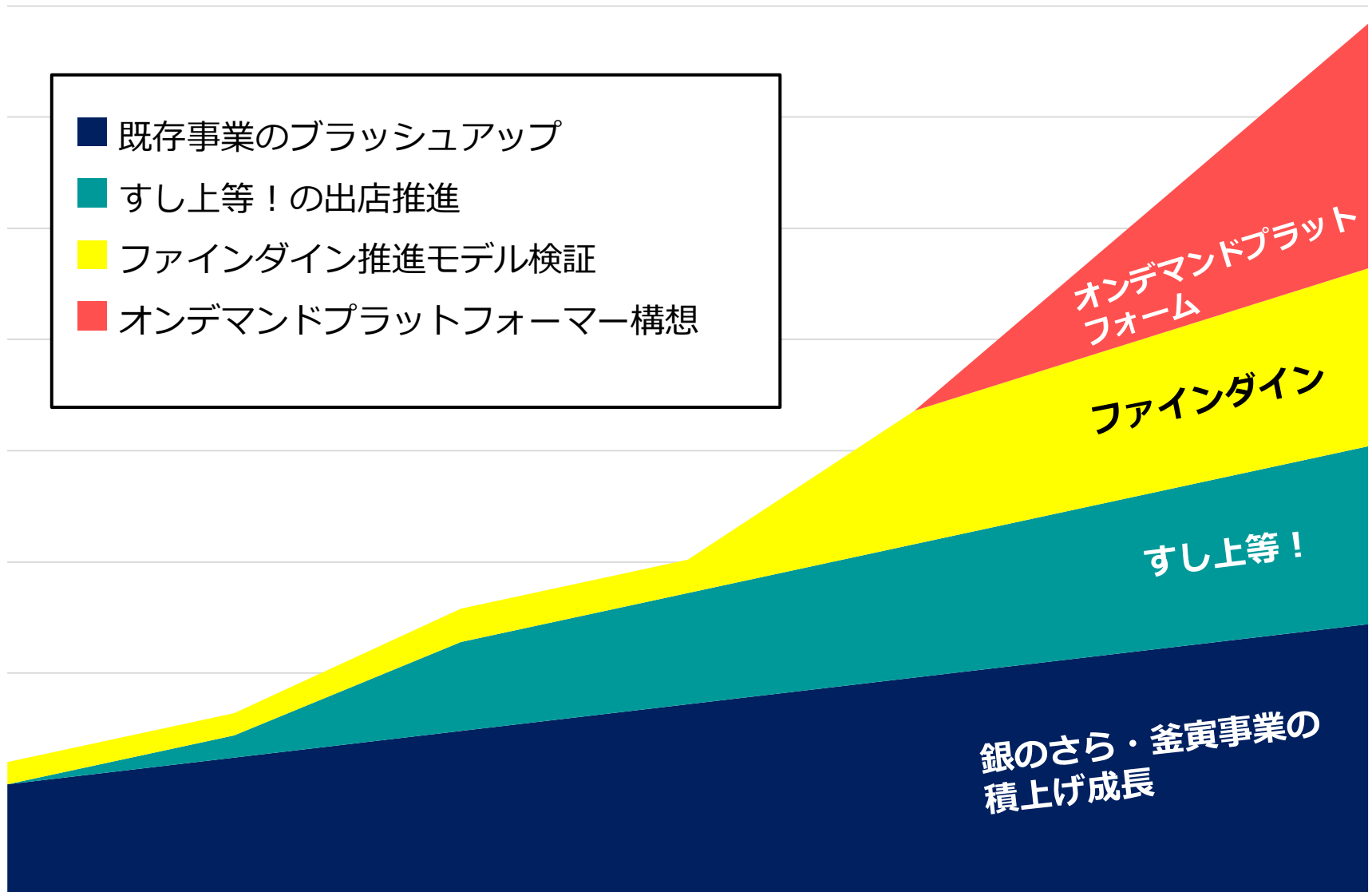
## 【下期の取組み】

2016年を目途に都内2店舗にて、銀のさらとの複合化モデル検証を拡大していく。

# 今後の成長戦略

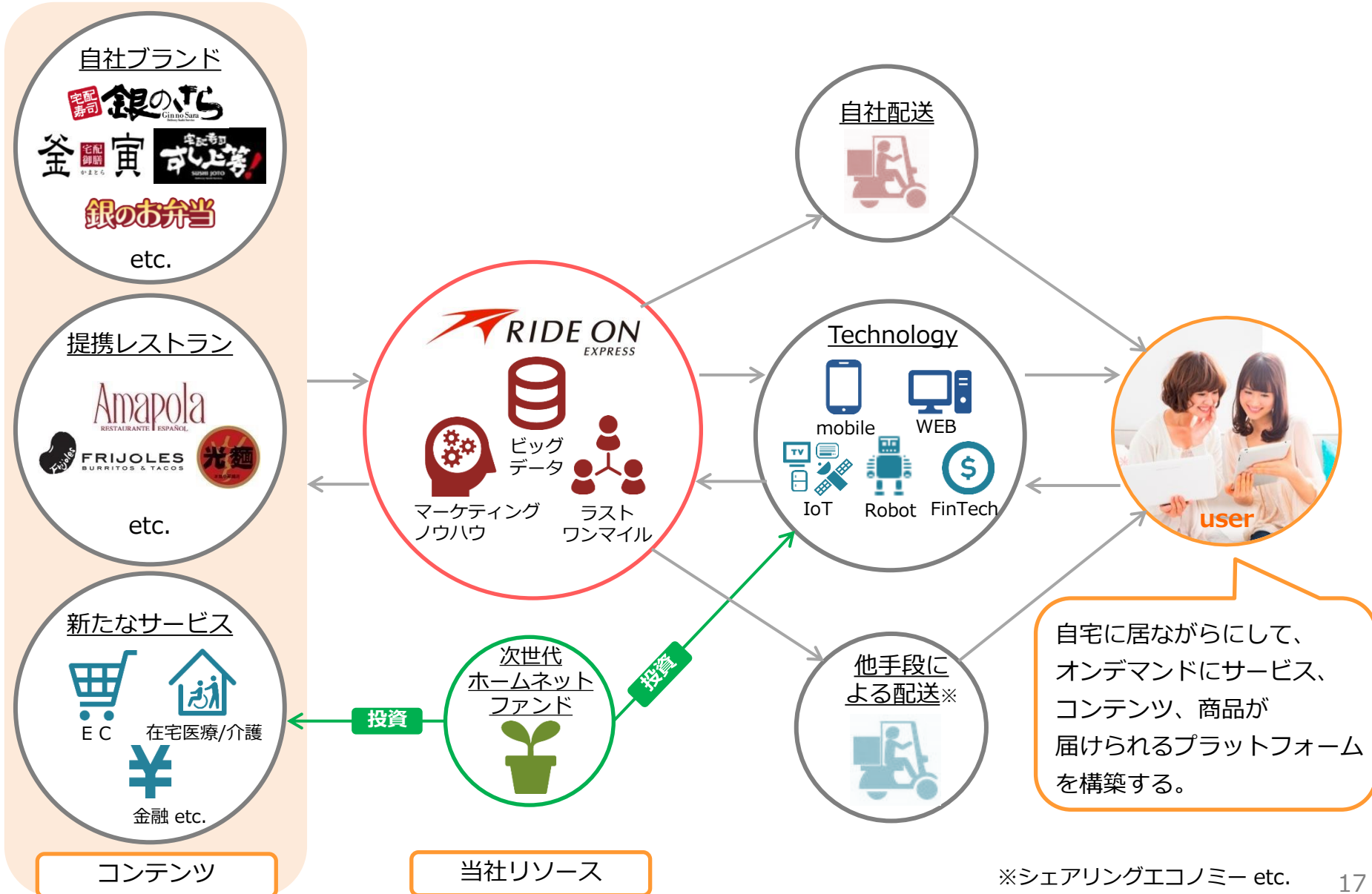


# 当社の成長戦略





# オンデマンドプラットフォーム構想



# 參考資料



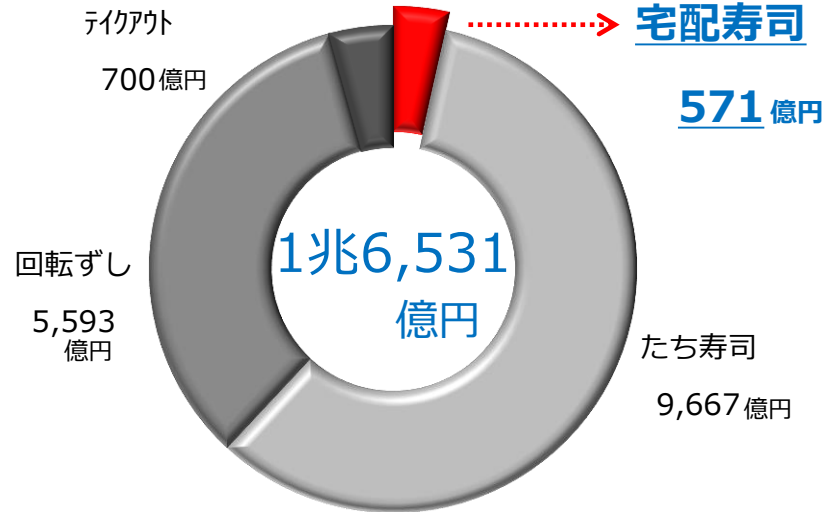
# 会社概要 (2015年3月末時点)

商号	株式会社ライドオン・エクスプレス RIDE ON EXPRESS Co.,Ltd.		
設立	2001年7月		
代表者	代表取締役社長 兼 CEO 江見 朗		
資本金	9億2545万円		
従業員数	正社員 303名、パート・アルバイト 2,145名		
事業内容	フードデリバリー事業の運営及びフランチャイズチェーン店の加盟募集・指導業務 「リトルアーティスト」の制作・販売		
本社所在地	東京都港区三田3-5-27 住友不動産三田ツインビル西館17階		
役員	代表取締役社長	兼 CEO	江見 朗
	取締役副社長	兼 COO	松島 和之
	専務取締役	兼 CFO	渡邊 一正
	常務取締役		富板 克行
	常務取締役		水谷 俊彦
	常務取締役		赤木 豊
	取締役 (監査等委員)		清野 敏彦
	社外取締役 (監査等委員)		瀧谷 啓吾
	社外取締役 (監査等委員)		岩部 成善
決算期	3月		
株式上場	東証マザーズ 2013年12月3日 (2015年11月20日にて東証一部へ変更予定)		

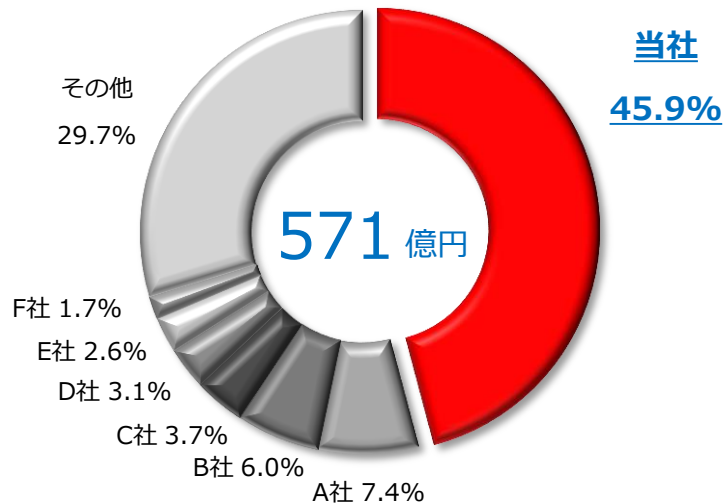
# 市場規模

※(株)富士経済 (外食産業マーケティング便覧2015) より

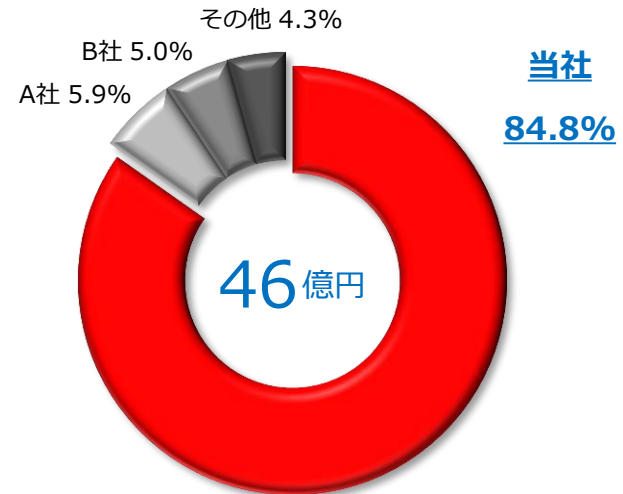
## I 日本の寿司市場 (2014年実績)



## I 宅配寿司市場 (2014年実績)



## I 宅配釜飯市場 (2014年実績)



# 各種指標

※2015年3月期実績

## ROA (総資本利益率)

9.4%

ROAは、10%程度だと「かなり優良」、5%前後だと「良い」、1~2%程度で「普通」とされます。

計算方法：  

$$\frac{\text{当期純利益}}{(\text{期初総資産} + \text{期末総資産}) \div 2}$$

## ROE (株主資本利益率)

19.6%

ROEは、20%前後だと「かなり優良」、10~15%だと「良い」、10%弱程度で「普通」とされます。

計算方法：  

$$\frac{\text{当期純利益}}{\text{株主資本}}$$

## 総資産回転率

2.73回

総資産回転率は、平成18年中小企業庁の調査によると、業種別に異なりますが平均1.0~2.0回となります。

計算方法：  

$$\frac{\text{売上高}}{\text{総資産}}$$

## 自己資本率

51.0%

自己資本比率は一般的に30~50%で優良であるといわれます。ちなみに中小企業の場合は15%くらいが平均とされています。

計算方法：  

$$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$$



この資料は、株式会社ライドオン・エクスプレス（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予測なしに変更する可能性があります。また、本資料には、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測ならびにリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報、将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

以上を踏まえ、投資をおこなう際は、投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。